



健康一口メモ

仙台市医師会
副会長
小針 瑞男

2019年12月末、中国武漢市から端を発したと言われる新型コロナウイルス感染症は瞬く間に全世界に拡散し、大きな脅威となつています。このウイルスは「SARSCoV-2」と命名され、新型コロナウイルス感染症を「COVID-19」と呼ぶことになりました。日本では何度が感染拡大の波が押し寄せ、感染制御は思うに任せません。感染者には発熱、咳嗽などの他にさまざまな症状が現れ、経過は千差万別で中には急変し重篤な状態に陥る場合もあります。特效薬はまだありません。治療は限られており、ステロイド剤や本来エボラ出血熱の治療薬として開発された「レムデシビル」が重症例で使用されています。

感染拡大を防止できず治療も決手に欠ける状態ですが、有効なワクチンが開発されれば、コロナ対策の切り札となる可能性があります。現在世界各国でさまざまなタイプのワクチンが研究開発され、日本でもすでに実用化されたワクチンによる接種事業が開始されました。

新型コロナウイルスのワクチン



2021年6月21日 寄稿

ワクチンには幾つかの種類があります。「mRNA（メッセンジャー）アールエヌエイ）ワクチン」はウイルスタンパク質を作るためのmRNAを注射し、産生されたウイルスタンパク質が免疫システムに認識されるというもので、米ファイザー／独ビオンテック社、米モデルナ社などが開発しています。「ウイルスベクターワクチン」は、人に対して病原性の低いウイルスにコロナウイルスの遺伝子を組み込んだもので、英アストラゼネカ社、米ジョンソン・エン・ド・ジョンソン社が開発、不活化ワクチンはウイルスの感染性を失わせたものの、組み換えタンパク質ワクチンはウイルスタンパク質を大腸菌、酵母などに作らせたものです。

短期間の使用経験だけなのでワクチンの安全性に対する不安が払拭されませんが、ワクチン効果の持続性も明らかではありません。しかしこのコロナ禍ではワクチンのマイナス面を許容し、ワクチン接種を全力で推進することが必要でしょう。

〔東北公済病院／青葉区国分町〕

毎週月～金曜 3時50分から宮城の最旬情報発信中!



月・火曜 MC
白壁 里沙子

さとう宗幸

水～金曜 MC
蜂谷 由梨奈